

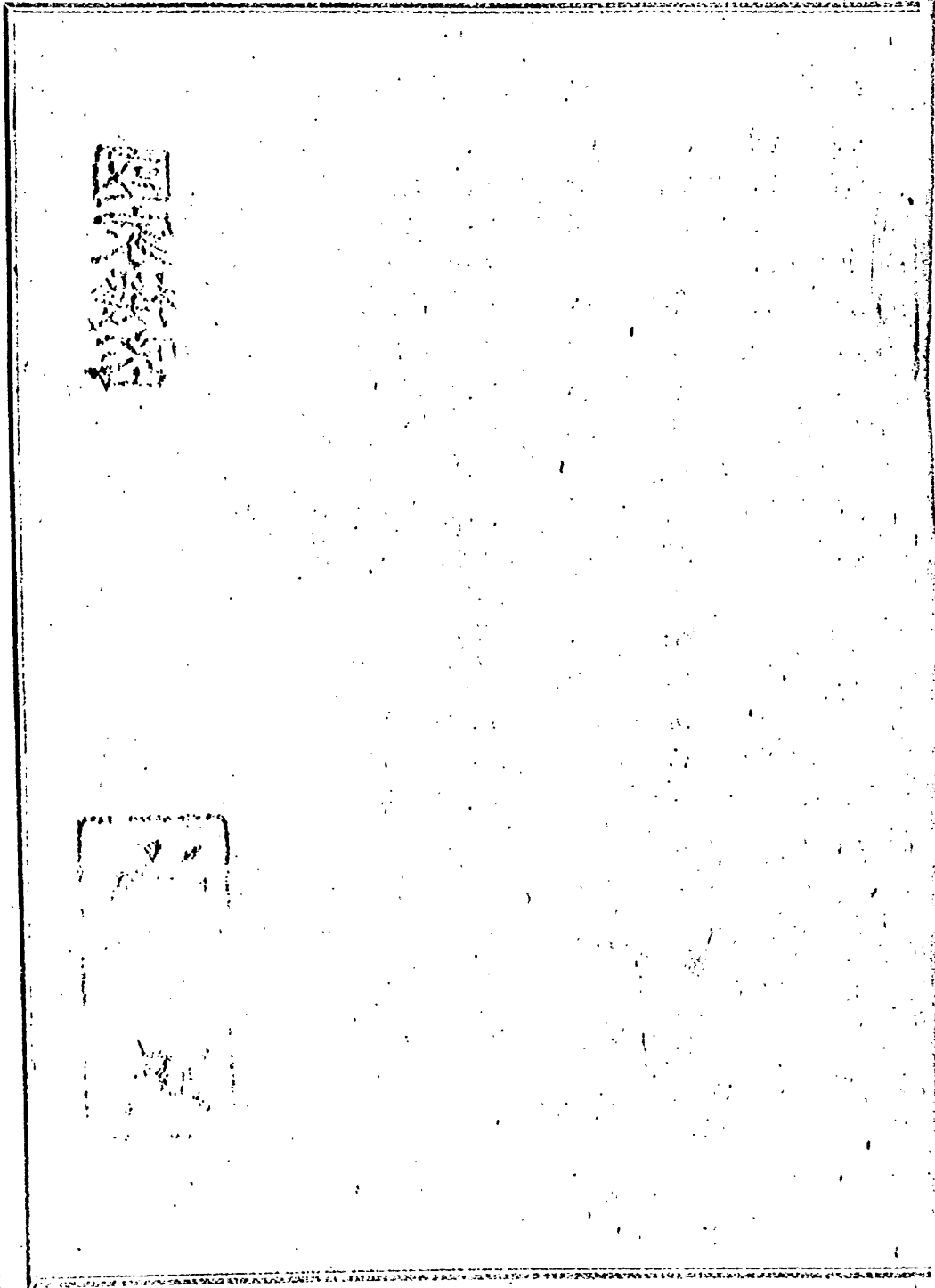
國家機密

決定

昭和二十六年三月三日

昭和二十六年三月三日  
通商會議決案

1562



1563

方針

一、速ニ極東ニ於ケル米英蘭ノ根據ヲ覆滅シテ自存自衛ヲ確立スル  
 ト共ニ更ニ積極的措置ニ依リ將政權ノ屈服ヲ促進シ獨伊ト提携  
 シテ先ツ英ノ屈伏ヲ圖リ米ノ續戰意志ヲ喪失セシムルニ勉ム  
 ニ極力戰爭相手ノ擴大ヲ防止シ第三國ノ利導ニ勉ム

要領

一、帝國ハ迅速ナル武力戰ヲ遂行シ東亞及南西太平洋ニ於ケル米英  
 蘭ノ根據ヲ覆滅シ戰略上優位ノ態勢ヲ確立スルト共ニ重要資源  
 地域並主要交通線ヲ確保シテ長期自給自足ノ態勢ヲ整フ  
 凡有手段ヲ盡シテ適時米海軍主力ヲ誘致シ之ヲ撃滅スルニ勉ム  
 ニ日獨伊三國協力シテ先ツ英ノ屈伏ヲ圖ル

(一) 帝國ハ左ノ諸方策ヲ執ル

(イ) 濠洲印度ニ對シ政略及通商破壊等ノ手段ニ依リ英本國トノ  
連鎖ヲ遮斷シ其ノ離反ヲ策ス

(ロ) 「ビルマ」ノ獨立ヲ促進シ其ノ成果ヲ利導シテ印度ノ獨立ヲ  
刺戟ス

(二) 獨伊ヲシテ左ノ諸方策ヲ執ラシムルニ勉ム

(イ) 近東、北阿、「スエズ」作戰ヲ實施スルト共ニ印度ニ對シ  
施策ヲ行フ

(ロ) 對英封鎖ヲ強化ス

(ハ) 情勢之ヲ許スニ至ラハ英本土上陸作戰ヲ實施ス

(三) 三國ハ協力シテ左ノ諸方策ヲ執ル

(1) 印度洋ヲ通スル三國間ノ連絡提携ニ勉ム

(2) 海上作戰ヲ強化ス

(3) 占領地資源ノ對英流出ヲ禁絶ス

日獨伊ハ協力シ對英措置ト並行シテ米ノ戰意ヲ喪失セシムルニ  
勉ム

(一) 帝國ヘ左ノ諸方策ヲ執ル

(1) 比島ノ取扱ハ差當リ現政權ヲ存續セシムルコトヲ戰爭終  
促進ニ資スル如ク考慮ス

(2) 對米通商破壞戰ヲ徹底ス

(3) 支那及南洋資源ノ對米流出ヲ禁絶ス

(4) 對米宣傳謀略ヲ強化ス

其ノ重點ヲ米海軍主力ノ極東ヘ誘致シ米極東政策ノ反省

ト日米戰無意識指構ニ置キ米國輿論ノ厭戰誘致ニ導ク

米海關係ノ離隔ヲ圖ル

(二) 獨伊ヲシテ左ノ諸方策ヲ執ラシムルニ勉ム

(1) 大西洋及印度洋方面ニ於ケル對米海上政勢ヲ強化ス

(2) 中南米ニ對スル軍事、經濟、政治的政勢ヲ強化ス

東亞情勢ニ對シテハ對米英蘭戰爭特ニ其ノ作戰ノ成果ヲ活用シテ

授蔣ノ禁錮、抗戰力ノ波殺ヲ圖リ在支租界ノ把握、南洋華僑ノ

利導、作戰ノ強化等戰略ノ手段ヲ積極化シ以テ重慶政權ノ屈伏

ヲ促進ス

帝國ハ南方ニ對スル作戰間極力對ソル戰爭ノ濫起ヲ防止スル

ニ勉ム獨「ソ」兩國ノ意嚮ニ依リテハ兩國ヲ媾和セシメ「ソ」  
ヲ樞軸側ニ引入レ他日蘇關係ヲ調整シツツ場合ニ依リテハ「ソ」  
聯ノ印<sup>度</sup>「イラン」方面進出ヲ助長スルコトヲ考慮ス

六 佛印ニ對シテハ現施策ヲ續行シ

察ニ對シテハ對英失地恢復ヲ以テ帝國ノ施策ニ協調スル如ク誘  
導ス

七 常時戦局ノ推移、國際情勢、敵國民心ノ動向等ニ對シ嚴密ナル  
監視考察ヲ加ヘツツ戦争終結ノ爲左記ノ如キ機會ヲ捕捉スルニ  
勉ム

(1) 南方ニ對スル作戰ノ主要段階落

(2) 支那ニ對スル作戰ノ主要段階特ニ將政權ノ屈伏

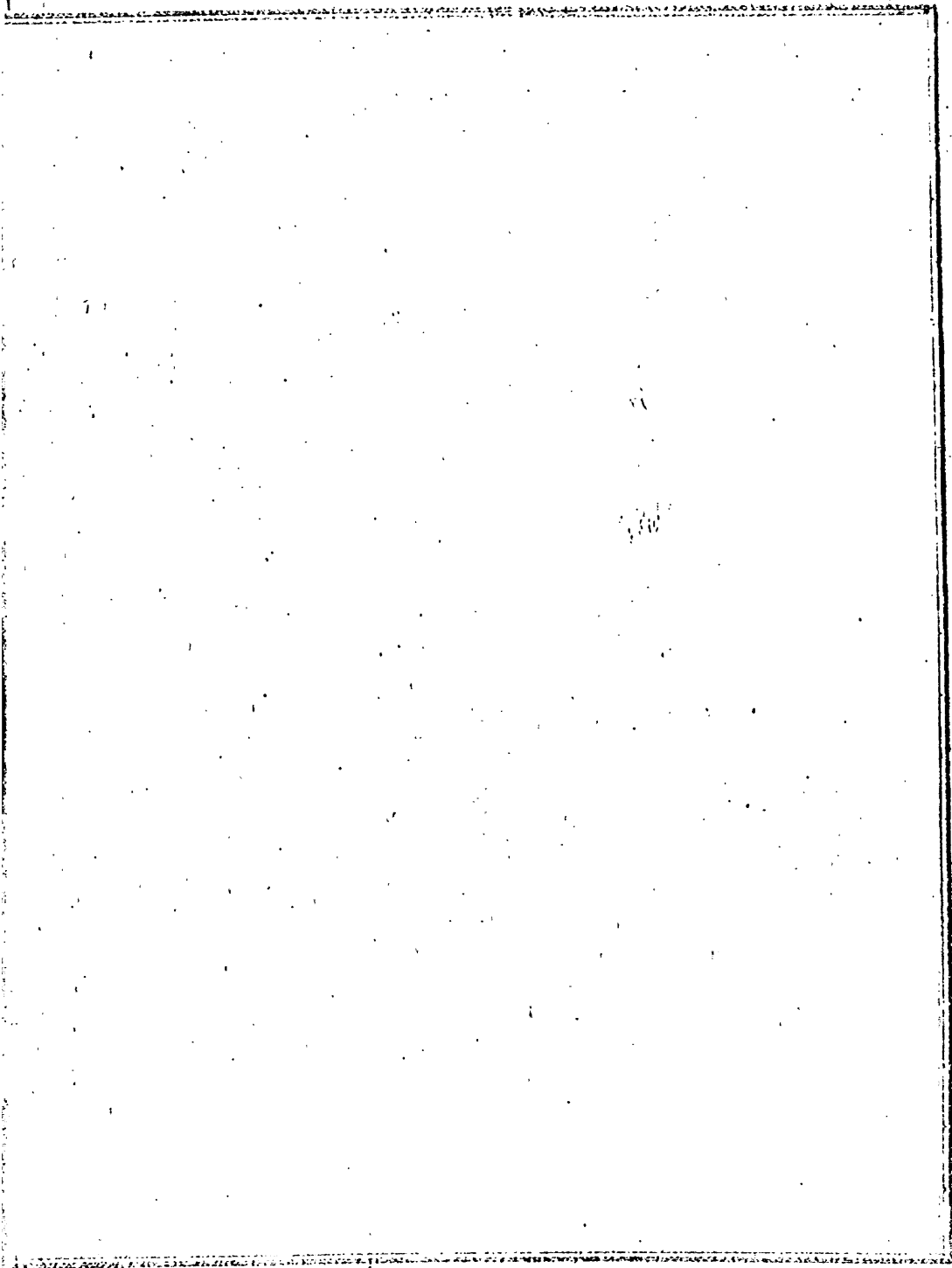
ハ歐洲戰局ノ情勢變化ノ好機特ニ英本土ノ没落、獨「ソ」戰ノ終末、對印度施策ノ成功

之ヲ爲速ニ南米諸國、瑞典、葡國、法王國ニ對スル外交並宣傳ノ施策ヲ強化ス

日獨伊三國ハ單獨不講和ヲ取極ムルト共ニ英ノ屈伏ニ際シ之ト直ニ講和スルコトナク英ヲシテ米ヲ誘導セシムル如ク施策スルニ勉ム

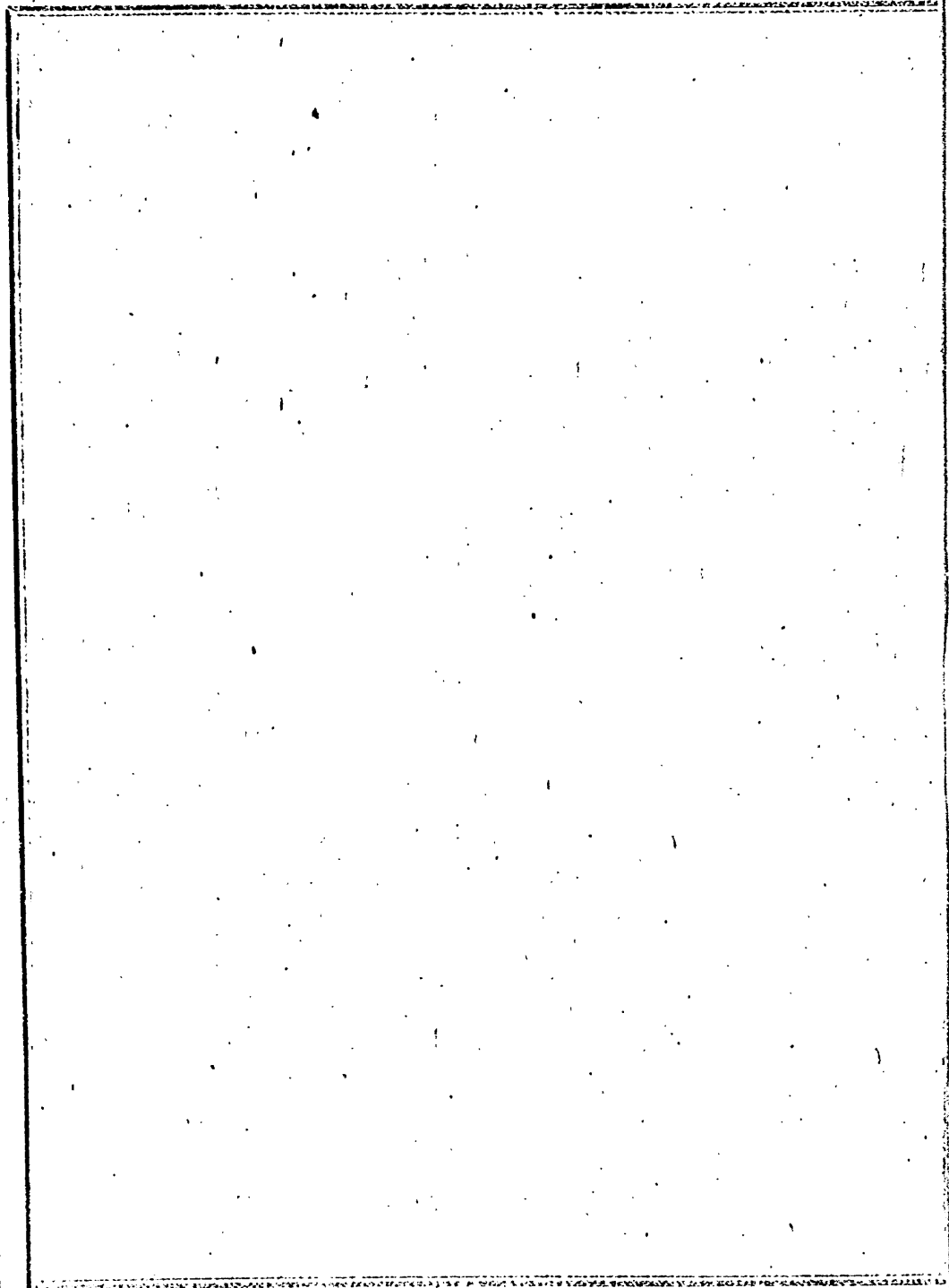
對米和平促進ノ方策トシテ南洋方面ニ於ケル錫、靛、供給及比島ノ取扱ニ關シ考慮ス





陸  
軍

1570



1571